

月刊

## 社協だより

平成29年  
7月号社協  
かるか発行：狩留家地区社会福祉協議会 編集：広報部  
広島市安佐北区狩留家町3144番地 TEL：844-0826

恒例の「ちびっこ広場納涼まつり」が第十八回目を迎えて開催されました。まさに狩家の夏はこのちびっこ広場の納涼まつりから始まると言えます。まさに狩家の夏はこのちびっこ広場の土地は、「故横田法雄さん」が提供され、当時、社協会長であった「故中村君子さん」達によって立ち上げられました。当初はいろいろご苦労があったようです。

しかし、「継続は金」です。今では北部主催の狩留家全体の駅前ちびっこ広場納涼まつりになりました。毎年の執行部の皆様方のご努力に感謝します。其の中で特筆すべきことは、石丸さんの「じやんけんカブトムシ大会」です。すでに五年継続して来られました。その当時、十三回目を迎えた納涼まつりに新風を吹き込んだ新企画で、今日も大会の目玉行事です。再来年に二十回目の節目を迎える当納涼まつりの構成内容などの再検討が必要かと思います。今後、より長くこのちびっこ広

場納涼まつりを継続するためには何か革新的な取組が必要だと思います。今来られている方々の大半は狩家の住民ですが、狩留家近郊からもちびつこの皆が集まって来てくれる仕組みと提案が必要です。今の実力で必ずできます。今年度に入つて、約六百人位の人が狩家の催事に集つて来ています。

今年度に入つて、約六百人位の人が狩家の催事に集つて来ています。

今年度に入つて、約六百人位の人が狩家の催事に集つて来ています。



## 「認知症研修会」に参加して 内藤京子

七月十三日、午後一時三十分より狩留家集会所において、認知症の研修会があつた。題して「認・活」を始めよう！！である。

今や誰しも私は大丈夫！とは決して言えない関心ごとであり、真夏日を押して参加した。

統計によると、認知症の患者数は、二千二十年の時点では約四百六十二万人（六十五歳以上、七人に一人）である。二千二

十五年には、推計で六十

## 避難訓練を終えて

平成二十九年度町内会の避難訓練を六月二十五日に実施した。梅雨空の中、各地区八班から約百名が、一齊に集会所に集合した。

町内会長、警察署、消防署並びに消防団による災害時の注意と心構え等

事前に六月に入り、社

聴講した後、集会所広場で消火器の取り扱い訓練を行つた。参加者は、戸数約四百名のうち三割であった。

すべての災害に対応で改めて身が引き締まる思いである。

会福祉協議会主催の「防災・道路点検パトロール」に参加して危険個所の点検見守りや自主防災役員会を開催した。

七月に入り各地の豪雨災害を目のあたりにして改めて身が引き締まる思いである。

すべての災害に対応できるのか、多くの課題が想定される。日ごろから互いに身の安全と大切な命を守る方法と準備に心掛けたい。

六月資源ごみ売上

一万九千円

## 理事会報告 議題

平成二十九年七月十一日

水辺の楽校 原爆死没者慰靈碑

の傍らで、狩小川小学校の平和学習に参加することについて

(八月四日)

二、「高齢者いきいき活動ボーポイント事業」について

三、第二次福祉のまちづくりプラン策定のあり方について

(八月十九日)

人数だけではなく町おこしの専門家や文化人も度々来られます。六～七年前は「狩留家に人が来るわけがない！」と言われていた狩留家とは様変わりして、今では「狩留家に行つてみたいから案内してもらえないか」と言われる狩留家に替わりました。狩留家が益々賑わいます。

背の魚を食べる。野菜や果物を食べることが大切。そして適度な運動の習慣。

誰しも認知症にかかりたくないが、もしも物忘れが気になつたら、かかりつけ医に先ず相談する

ようにとの事であった。